

琵琶湖疎水沿いに山科へ

(第94回くらわん会 2004/04/06)

よく晴れた青空と初夏の陽気に、満開の桜、京阪三条駅近くの鴨川の河原の広場にくらわん会の元気な老々男女が141名集合し、琵琶湖疎水沿いに花吹雪と花筏を楽しみながら山科まで歩いた。

今日は、原会長も元気な姿を見せ、いつものように大きな声で挨拶。最初に今年の秋に100回を迎える「くらわん会」の記念行事についての説明があった。実施日は10月19日(火)に決定、詳細な内容はこれから実行委員会で検討するので皆さんはその日を予定しておいて欲しいとの内容である。本日のリーダー 高濱世話人からコースの詳細説明があり、柳の新緑が燃え始めた加茂川河原を出発する。

河原から川端通りへあがり、冷泉通りを琵琶湖疎水に沿って進む。通りの桜は満開で時折り吹く風にあおられて花びらが舞い、一行の頭上を花吹雪が舞い、「きれいやなあ！」と言う、感嘆の音が聞こえる。途中の夷川ダムも発電中で水量がいつもより多く桜並木を一段とひきたてている。

平安神宮の大鳥居を左に見て橋をわたると昨年の京都水フォーラムを記念して始められた、お花見用の十石舟が花見客を満載で進むのが見える。お花見十石舟は琵琶湖疎水記念館の横から出発し、夷川ダムまでの間を40分で往復している。料金は800円/一人である。舟は2隻あるが4時間待ちの盛況であった。

一行は、琵琶湖疎水記念館で小休止をとり、展示の見学のあと南禅寺境内へと向かう。疎水から南禅寺界隈は花見客で一杯である。メンバーの一人が迷子になるが、何とか見つけて合流。南禅寺からレンガ造りの水路閣(水道アーチ橋)の下を抜け、高德庵(最勝院)の横を東山の山道にかかる。

このあたりはさすがに行き交う人も少なく、急な坂道を七福思案処の峠へとゆっくりと進む。七福思案処は五叉路になっており左へ登ると大文字山へと続く。この峠は場所が狭いため立ったまま、しばらく休憩、急坂を登り一汗かいた体を休める。

原会長からくらわん会百回記念行事(十月十九日火)の紹介があった



鴨川の河原の広場にくらわん会の元気な老々男女が百四十一名集合



新芽を吹き出した柳の下を通り鴨川の河原を出発



夷川ダムも発電中で水量がいつもより多く桜並木を一段とひきたてている





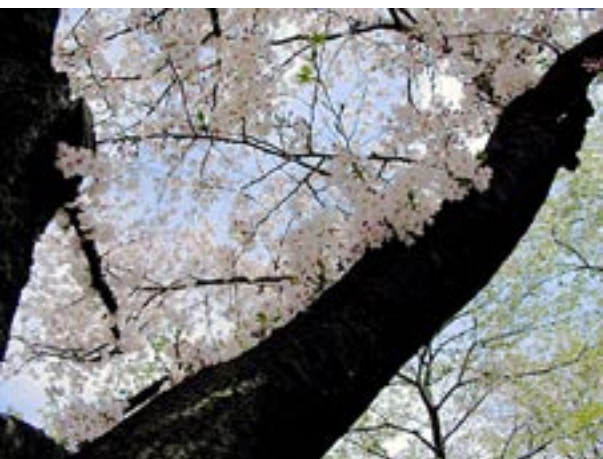
進むお花見用の十石舟が花見客を満載で

全員が揃ったところで昼食場所の山科側へ山道を下る、途中、急坂や丸木橋の難所をなんとか全員、無事通過、永興寺前の公園に到着した。公園は満開の桜と満々と水を湛えて流れる山科側の疎水のそばにあり、それぞれ思い思いの場所で弁当をひろげる。

天気もよく、絶好のお花見日和である。帰りは、天智天皇陵を右手にみて、満々と湛えた水面をいきおい良く流れる美しい花筏を眺めながら満開の桜の下を諸羽神社まで歩く。諸羽神社では無事到着を感謝し、参拝のあと、その境内で解散。

ここからは、すぐ近くの山科の駅まで三々五々と歩き帰路に着く。今日の行程は桜の花をこころゆくまで楽しめた満足の日でした。

高橋 保記



う疎水沿いの桜は今が満開で花吹雪が舞



よ巨大な輝きの像横で桜をカメラに収め

疎水竣工から百十四年目を迎えた琵琶湖



インクライン下では噴水と桜の競演も

見学琵琶湖疎水記念館で小休止と展示の





名物湯豆腐の看板横を南禅寺に向
かつて進む

南禅寺に到着



南禅寺三門から見た桜

南禅寺から上を疎水分流が流れる水路
閣(水道アーチ橋)をくぐって東山へ



高徳庵(最勝院)の縁結びの松を百
日紅が包みこんでいる

急な坂道を七福思案処の峠へとゆっく
りと進む加



七福思案処は五叉路になっており左へ
登ると大文字山、ここは場所が狭いた
め立ったまま、しばらく休憩

春休みとあって、お孫さんも特別参
加





急な下りを注意しながら進む

ひと山越えて永興寺横に到着



穏やかな陽射しにぬくもりを感じながら昼食

疎水横で待望の昼食



疎水は水量豊か
川面に流れる花びらも途切れない

山科疎水 花筏を見ながら一路山科へ



諸羽神社で解散 この後各自山科駅へ

JR・京阪・地下鉄の山科駅





琵琶湖疎水沿いに山科へ

<行程>

京阪三条駅⇒琵琶湖疎水沿い⇒琵琶湖疎水記念館⇒南禅寺⇒七福思案処⇒永興寺付近⇒諸羽神社⇒J R・京阪・地下鉄山科駅 歩行距離：8 km

2004年04月06日(火) 第94回例会 141名参加